

# アラウンド GOGO 55



## 父と母 離ればなれで暮らす高齢の 市橋 博

昨年夏、パーキンソン病を患う78歳の母の状態が悪くなり、3か月間入院しました。退院後、家に戻ることが難しい状態になり、一冊の雑誌を渡されました。アパート・マンション情報の有料老人ホーム版です。保証金1億5千万円というホームもあります。

と言われると、手が不自由なため思うように介護ができない自分にいらだちます。

「どんな人が入居するのだろう」など思いながら、保証金や月々の費用、私や弟の家との距離を考えて搜しました。老人ホームに入居した母に、手が震えて「やっとお前の気持ちがかかるようになった」

父も、白内障で視力がほとんどありません。ホームヘルパーを日に3度派遣してもらい、自宅で生活しています。視力がだんだん落ちていくことにイライラする父に、中途障害者の困難さと心情をあらためて感じていきます。父は、戦後復員し高度成長期を通して銀行を勤め上げた人です。その父の退職金・年金・貯金などがあっても、必要になる

費用を電卓に打ち込むと溜息が出てしまいます。

この4月から始まった後期高齢者医療制度には多くの人たちと拳をあげてきました。実際に高齢者家族の一人となり、厳しい現実を実感しています。私は障害者問題で毎日拳をあげています。多くの高齢者とその家族同様、拳をあげられない障害者や家族がたくさんいることを忘れずに、今までよりも高く拳をあげようと思っています。

きてほしい」という気持ちには変わりありません。しかし60年連れ添った父と母が離ればなれで暮らさざるを得ないのも現実です。数少ない休日にも、父と母の所を回ることで勘弁してもらっています。

障害者権利宣言（1975年）は「同年齢の市民と同等の基本的権利を有する」としました。私はその言葉に励まされ、結婚も子育てもしました。これからは、親のことで悩む団塊の世代の一人として、高齢者の問題にもとりくみたいと思います。

（障都連事務局長  
\*「アラウンド55（ゴーゴー）」は50代をむかえた会員による介護や健康、人生設計などをテーマにした800字のエッセイコーナーです。